

平成27年度入試問題（推薦入試Ⅰ）

小論文（出題意図）

（法文学部 言語文化学科）

1

異文化理解において、そのもっとも重要なキーワードと考えられる「国際化」「グローバル化」に関して論じた文章から出題しました。論旨を正確に理解する読解力、問われている点を正確に把握し、それを論理的に説明する能力を問いました。

問1では、「国際化」と「グローバル化」というしばしば混同されがちな二つの語彙を筆者がどのように定義しているのか、論旨を的確に捉えて、それを簡潔にまとめることができるかが重要です。

問2では、「グローバル文化」、つまり文化におけるグローバル化に大きく関与しているものがアメリカ大衆文化であることを本文から読み取り、そのうえで、この文化がもつ「普遍性」と「魅力」を正しく理解し、記述できるかが問われています。

2

「会話」と「対話」の差異を明らかにし、後者の「対話」がどのような原理によって近代劇の要になっているのかについて論じた文章から出題しました。文章の流れの中で筆者の論旨を正確に理解する読解力、問われている点を正確に把握し、それを論理的、説得的に論述する表現力を問いました。

問1では、与えられた英語を適切でわかりやすい日本語に訳すことができるかが試されます。

問2では、日本語の辞書では曖昧にしか区別されていない「会話」と「対話」について、問1で問題にした内容や本文の論旨をふまえて、それぞれの意味を整理し、説得的に提示できるかが重要です。

問3では、「対話」の前提となるものを理解したうえで、そこからさらにどのような条件のもとで「対話」が生成していくのかを本文の例からの的確に読み取り、それを筋道を立てて説明できる力を問っています。